

地域医療連携センターだより



兵庫県立丹波医療センター

〒669-3495 兵庫県丹波市氷上町石生 2002 番地 7
TEL : 0795-88-5200 (代表)

Vol.11

発行
令和4年2月1日

当院における新型コロナウイルス感染症 に対する取り組み



インфекションコントロールドクター
感染症専門医・指導医

見坂 恒明 Tsuneaki kenzaka

当院は感染症指定医療機関であり、新型コロナウイルス感染症の流行初期の2020年3月より患者受け入れを開始しました。その後、患者数の増加と対応できる医療機関が増えたため、指定医療機関の役割として、より重症度の高い患者を中心に受け入れてきました。2021年末までで計214名の新型コロナウイルス感染症患者が入院しました。患者は10歳代から100歳代まで幅広く、酸素投与が必要な中等症IIに区分される患者が73名、人工呼吸管理等が必要な重症患者が24名でした。丹波地域での感染者は2021年末までで500名ですが、当院での受け入れは66名でした。また、医療供給体制がよりひっ迫する都市部の中等症以上の患者も多く受け入れてきました。

当初は、手探りの状態で診療していました。しかし、一般の医療の発展に比し著しい速さで、速抗原検査やPCR検査の普及、治療薬がある程度確立されていったこと、また、ワクチン開発・接種が進んだこと等により、検査や患者受け入れ、治療のマニュアル化ができ、今では専門性の有無にかかわらず、誰が診療しても一定の水準で治療できるようになりました。このことで、特定の医療従事者に診療の負担が偏りすぎることなく、概ね院内全体での協力が得られました。

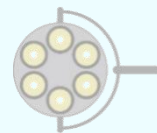
職員の感染予防の意識が高く、幸いにこれまで院内でのクラスター感染は発生しておりません。また、ささやま医療センターが軽症患者を多く受け入れてくださったことや医師会のご協力があったおかげで、指定医療機関の役割を中心に、診療を継続できました。さらに、行政の助けもあり、目立つ風評被害にあうこともなく、新型コロナウイルス感染症以外の通常診療機能も低下することなく今日に至りました。

診療のみならず、TVや新聞（ヤフーニュース）等での一般向けの情報発信の他、学会発表や論文発表などの学術面での情報発信もしております。まだまだ終息はみえませんが、当初のすべてが手探りだった状況と比べれば、新型コロナウイルス感染症について多くのことがわかり、決して絶望的・悲観的な状況ではありません。過度に楽観視や不安視することなく、情報収集と現状把握を常に行いながら、この地域の医療をしっかりと守ってまいります。



外科のご紹介

さらに充実された 外科診療機能について



外科・消化器外科

副院長

藤田 恒憲

Tsunenori Fujita

外科はスタッフ4名（消化器3名、乳腺1名）、専攻医2名の計6名と神戸大学からの非常勤医師2名で診療を行っています。スタッフ4名は外科指導医・専門医や消化器外科指導医・専門医の資格を有し、うち2名は神戸大学臨床教授として専攻医、研修医の教育・指導にもあたっています。2021年4月からは内視鏡外科技術認定医、肝胆膵外科高度技能専門医、胆道学会指導医、膵臓学会指導医、肝臓学会指導医といった専門医資格を有するスタッフが揃い、消化器外科では近隣病院の中で最も充実した陣容となっています。治療方針は毎週の消化器内科・外科による内視鏡カンファレンスや毎月の多職種によるがんボードで十分検討し、手術治療・抗がん剤治療・放射線治療といった集学的治療を行っています。

胃がん・大腸がんには内視鏡外科技術認定医を中心として低侵襲な腹腔鏡手術を積極的に導入し、進行下部直腸がんに対しては術前化学放射線療法を行うことで局所再発率の低下や肛門温存率の増加をはかっています。

肝胆膵領域においても根治性を目指し、拡大手術として膵がんに対する血管合併切除を伴う膵切除術、低侵襲手術として膵低悪性度腫瘍に対する腹腔鏡下膵切除術を行い、昨年からは施設認定を取得し、腹腔鏡下肝切除術も積極的に行っています。

乳癌については乳癌検診や年1回の休日検診（ピンクリボン運動）を通じ地域に貢献し、乳房温存手術をはじめ、胸筋温存乳房切除手術など進行度にあわせた適切な手術を行っています。

急性虫垂炎、急性胆嚢炎、腸閉塞、腹膜炎といった救急疾患に対しては丹波圏域の準三次医療機関として積極的に受け入れ、緊急手術においても低侵襲な腹腔鏡下手術を適応しています。

患者さんにとって安全で最新、最善の治療を提供できるように今後も取り組んでいきますので、よろしくお願いいたします。





新型コロナ
最前線

HCU
血液浄化センター

最前線で一致団結！チーム医療を実践しています

HCU、血液浄化センターは、COVID-19 を含む感染症患者さんを受け入れる陰圧個室をそれぞれ2床設置し、高度な医療を提供するための設備が整えられています。また、医師や臨床工学技士、薬剤師、放射線技師、理学療法士、医療ソーシャルワーカーなど多職種と連携し、質の高いチーム医療を提供できる体制です。今回私達は、COVID-19 第5波が終息した9月までに、丹波圏域だけでなく兵庫県内の様々な地域から多くの COVID-19 重症患者さんや透析患者さんを受け入れました。中には、PCPS を使用し、全身管理が必要な患者さんもおられました。特に印象深いのは、重症肺炎を併発し、人工呼吸器を装着した患者さんです。肺炎を改善するために、チームが一つとなり、定期的に肺理学療法を行い、肺炎が改善して、一般病棟に転室された時は本当に嬉しかったです。COVID-19 禍の面会が制限される中で、HCU では患者さんやご家族の不安を少しでも軽減する為に何が出来るのかを考え、iPad を使ったリモート面会を実施しています。実際に面会できなくても表情や言葉を感じ取って頂ける時間を設け、お互いの声を聞くことで安心感と闘病意欲に繋げていただく一助になっています。今後もリモート面会の機会を作り、家族看護を大切にしていきたいと思います。血液浄化センターにおいても、コロナ感染症の患者さんを受け入れました。感染対策を確実にを行い、事前にシミュレーションや勉強会を行い受け入れ準備を整えていたことで、安全に実施することができました。今後も感染対策を厳重に行いながら毎日の業務に励み、地域の中核病院としての役割が果たせるようスタッフ一同頑張っていきます。



《 HCU スタッフ一同 》



《血液浄化センター》



体験記

～県立加古川医療センターへ応援看護師として
派遣された2人の看護師の体験記です～

県立加古川医療センターのコロナ重症センターは、COVID-19 罹患により、呼吸状態が悪化し、人工呼吸器装着を必要とする患者さんの集中治療を行う専門病棟として設置されました。ここに入院される患者さんは、肺を休ませるため多くの薬剤を使用し、眠られた状態で医療処置を受けておられるため、ご家族は、面会できず不安な日々を過ごされています。

集中治療後症候群（PICS）とは、集中治療室在室中、退室後、あるいは退院後に生じる身体障害、認知機能・精神の障害のことを言います。そして、この障害は、ご家族にも起こり得ると言われており、不安やうつ等の症状が長期間にわたり認められません。

ある重症患者さんとご家族について紹介します。その患者さんは、人工呼吸器から離脱された後、ずっと何かに襲われ、殺されるという怖い夢を見られていました。しかし、時々、家族や知らない人の声に「頑張れ」と言われ、その声はセンターの方だったと思う。目が覚めるまでの記憶がなく今も苦しいけれど、あの悪夢が自分の現実だ。」と話されました。



看護師
婦木 美矢子



そこで私は、患者さんの入院後の経過について説明し、ご家族ともリモート面会の際に一緒に確認しました。記憶の欠如を補うことが、PICS 介入には有効と言われており、患者さんが、悪夢のなかにいたと感じていた時も、家族と共に闘っていたと感じてもらえることは、患者さんだけでなく、ご家族にとっても必要なケアと考えます。そのことを私に教えてくれた患者さんでした。コロナ重症センターでは、病状が改善すれば退院され、また別の患者さんを迎えられる状況ではありますが、僅かな時間であっても、患者さんの傍らで、社会復帰を果たすために、一人一人の患者さんを大切に関わっていきたいと思います。

2020年の冬に COVID-19 が日本に流行し、2年が経過しようとしています。感染の波は徐々に大きくなり、毎日、自分の両親と同じぐらいの年齢の方が重症化し、亡くられる報道があると不安になることもありました。そのような時に、県立加古川医療センターに重症コロナ病棟が設置され、県立病院の看護師を集めて運営されることを知りました。その一員として派遣を依頼されたときは、すぐに返事をする事ができませんでした。しかし、苦しんでいる患者さんがおられるのであれば、微力ながら役に立ちたいと思い承諾しました。

派遣先の重症コロナ病棟には、各県立病院から多くのスタッフが派遣されており、多くの重症患者の治療・ケアを多職種で協力しあいながら行いました。主に、人工呼吸器を装着し、鎮静をかけた状態で腹臥位療法が実施される患者さんに対し、清潔を保つために必要な清拭、口腔ケアや運動機能の低下を防ぐ、あるいは機能維持のためのリハビリなどを行いました。



看護師
荒樋 健太郎



また、面会できなくなった患者と家族をつなぐための電話対応など、これまであたりまえにできていた日常を支援するために、スタッフ同士で話し合い、制限される環境のなかで、できることを可能な限り行いました。日々、多忙な業務に追われていたが、コロナから回復された患者さんやその家族の方から「ありがとう」と声をかけて頂く事もあり、その言葉を喜びの糧や力にして、頑張ることができました。

今回の加古川での経験を活かし、看護師として知識を深め、患者さんによりよい看護を提供したいと思っています。



Pick up

がん性疼痛看護認定看護師が誕生しました



がん性疼痛看護認定看護師 藤原 美由紀



がんと診断された患者さんは、身体的な痛みは勿論、心理的、社会的、スピリチュアルな痛みなど様々なものを持っておられます。痛みがあることでイライラしたり、気分が憂鬱になったり、眠れなかったり、日常生活への支障が出たりします。私は、患者さんが感じている痛みのマネジメントをし、患者さんが自分らしい生活を維持または取り戻す事が出来るよう、スタッフと協働しながら最善の方法を考え手助けをさせていただいております。このような関わりの中で大切にしている事は、患者さんが感じている痛みはそれぞれ違っているため、個別性を大切にしたい関わりが必要だということです。痛みが取れて夜ぐっすり眠れるようになりたい、または、動けるようになりたい・旅行がしたいと考えておられるのか、痛みが取れて自宅で生活がしたいと願っておられるのか、などという思いを汲み取りながら関わっていくように心がけています。

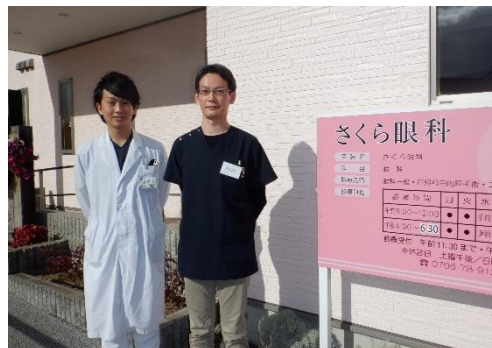
患者さんが感じていた痛みやその他身体症状のコントロールがつけば、自宅での生活を希望される方もあります。住み慣れた地域や自宅で生活を送りたいと願う患者さんやご家族のために、地域の先生方や訪問看護師の皆様、コメディカルの皆様と連携を密にしながら、患者さんが希望される生活を送る事ができるように支援していきたいと考えております。どうぞよろしく願いいたします。

街の医療機関

地域医療を担う近隣の医療機関を紹介させていただくコーナーです。
医療機関の特徴を知り、地域住民の皆様にも良質かつ効率的で切れ目のない医療が提供できる連携を目指します！
今号は、さくら眼科 太田将文先生をご紹介します☆

さくら眼科 太田 将文先生(丹波市氷上町)

今回の医院訪問は、氷上町さくら眼科太田将文先生にお話を伺いました。先生は平成14年の御卒業で、京都大学眼科学教室に入学。大学や和歌山日赤で研修の後に大学院に進まれ、学位取得後に静岡県立総合病院を経て平成23年10月にさくら眼科開院、院長に就任されました。眼科一般の診察をされていますが、専門は黄斑変性などの網膜疾患との事でした。日常診療で心掛けている事として、良識的でありたい、患者の状況で何が最良かを考えるようにしていると話され、眼で困った時に相談しやすく信頼してもらえる眼科医を目指したいと言われました。丹波医療センターに対するコメントとしては、手のかかる患者を診てもらい感謝している、弾力的な対応がありがたいと言っていました。若手Drに対するアドバイスとして、患者から学ぶことも多いので一人一人の診療経験を大切にし、うまくいかなかった原因を考えることが勉強になると話していただきました。小生も浪人時代京都に居りましたので懐かしさを持ってお話を伺いましたが、そのスマートさと真摯な様子に山オッサンとは一味違う新しい風を感じた1日でした。 大野 記



外来診療担当表 (令和4年2月)

診療科 \ 曜日		月	火	水	木	金	備考	
内科	一般・初診	藤井 康和 長谷川 貴也	石田 達郎 杉本 龍	見坂 恒明 合田 建 田村 証司	森 寛行	見坂 恒明 水谷 直也 樺田 高浩	◎ 二次精密検査は、一次健康診断結果票をご持参ください。	
	専門 (初・再診)	河崎 悟 (循環器)	新倉 悠人 (循環器)	松本 賢亮 (循環器)	柿崎 俊介 (循環器)	板倉 崇泰 (がん・消化器) 野村 雄大 (消化器)	◎ 水曜日の循環器は隔週の為、ご相談ください。	
		西崎 朗 (消化器)	星島 正彦 (循環器・腎不全)	佐藤 悠 (消化器)	西崎 朗 (消化器)	松本 賢亮 (循環器)		
	予約再診	森 寛行	第1・3 午後 河崎 悟	藤井 康和	藤井 康和	田中 健雄	◎ 次回の再診予約のあった患者さんのみ	
	専門外来 (予約)	こころと記憶の診療科	射場 亜希子					◎ 他医療機関等からの紹介予約のみ
		呼吸器	桂田 雅大	小林 和幸 桂田 雅大(腫瘍)			小林 和幸 (第4) 桂田 雅大 (第1・3)	◎ 第2・4月曜 午後のみ
		不整脈・ペースメーカー		第2・4 午後 河崎 悟				
		糖尿病		井上 朋也		鈴木 正暉 大橋 紳一郎		
		緩和ケア		板倉 崇泰			板倉 崇泰	◎ 緩和ケア：院内がん相談支援センターで予約された患者さんのみ
		がん治療支援	板倉 崇泰	午後 板倉 崇泰	板倉 崇泰	板倉 崇泰	板倉 崇泰	
脳神経内科		辻 麻人		関口 兼司				
腫瘍・血液内科			北尾 章人		水谷 優			
膠原病					第2・4 河野 誠司	一瀬 良英		
リウマチ内科					上田 佳秀			
肝臓				星島 正彦				
禁煙・睡眠呼吸								
小児科	1 診	井上 真太郎	高藤 哲	市川 裕太	岡本 光宏	酒井 國安		
	2 診	余田 愛香	岡本 光宏	高藤 哲	市川 裕太	余田 愛香		
	3 診	清水 健史	京谷 萌	清水 健史	京谷 萌	井上 真太郎		
専門外来 (予約)	第2・4 内分泌 第1・3 神経	井上 真太郎 (糖尿病・循環器)	第1 第2 加藤 神奈	余田 愛香	市川 裕太	岡本 光宏 (アレルギー疾患)		
	第1・3 神経	酒井 國安 (アレルギー疾患)	担当医 (1ヶ月健診)	担当医 (乳児健診)		高藤 哲		
	山口 宏 (アレルギー疾患)							
外科	一般・消化器	寺井 祥雄	担当医	藤田 恒憲 岡本 柁志	大宮 悟志	大野 伯和 小泉 宣		
		第1・3 肝臓 木戸 正浩		第2 肝臓 木戸 正浩				
	乳腺外科	岸 淳彦		岸 淳彦		岸 淳彦		
整形外科	上本 晴信	芝 昌彦	上本 晴信	芝 昌彦	芝 昌彦	◎ 金曜 芝医師は初診のみ		
	戸田 誠也	安部 真人 上本 晴信 (予約のみ)		安部 真人 上本 晴信 (予約のみ)	戸田 誠也			
リハビリテーション科	上本 晴信	芝 昌彦	上本 晴信	芝 昌彦	芝 昌彦	◎ リハビリ訓練(要予約)は毎日実施		
脳神経外科	甲田 将章 (第1・3) 中井 友昭 (第2・4)	岡村 有祐	担当医 (予約のみ)	岡村 有祐	塩見 亮司	◎ 水曜 予約診察のみ 手術日のため救急対応要相談 第5月曜日は交代制		
皮膚科		林 ちさ	村田 洋三	中野 英司	村田 洋三	◎ 火曜 診療開始 9:30~ 受付時間 11:00まで		
泌尿器科	吉村 光司	山崎 隆文	吉村 光司	山崎 隆文	担当医	◎ 受付時間 月~木曜 11:00まで 金曜 10:30まで		
産婦人科	1 診	丸尾 原義	望月 慎介	武田 晃子	鈴木 美奈子	武田 晃子		
	2 診	出口 雅士	中村 昌平	望月 慎介	中島 由貴	辻 麻亜子		
周産期		担当医		担当医		◎ 午後のみ・予約診察のみ		
眼科	9時30分~	棚瀬 真希子	金光 聖隆	第1・2 金光 聖隆	金光 聖隆	金光 聖隆	◎ 診療開始時刻 棚瀬医師・林医師 9:30~	
			第3 菅澤 淳	鉄本 遼	鉄本 遼	鉄本 遼	◎ 林医師は予約診察のみ	
耳鼻咽喉科	小松 弘和	小松 弘和	小松 弘和	柿木 章伸 小松 弘和	小松 弘和		◎ 月曜 受付時間 11:00まで 午後手術日のため救急対応不可	
	楠 直明 木下 知恵子	楠 直明 木下 知恵子	楠 直明 木下 知恵子	楠 直明 木下 知恵子	楠 直明 木下 知恵子		◎ 予約診察のみ	
放射線科	一般	楠 直明 木下 知恵子	楠 直明 木下 知恵子	楠 直明 木下 知恵子	楠 直明 木下 知恵子	楠 直明 木下 知恵子		
	リニアック		岩下 和真			坂口 俊也		
歯科口腔外科	竹内 純一郎	竹内 純一郎	竹内 純一郎	竹内 純一郎	竹内 純一郎	竹内 純一郎	◎ 他医療機関等からの紹介患者および障害者(要介護の方を含む)のみ	
	寺岡 駿	寺岡 駿	寺岡 駿	寺岡 駿	寺岡 駿	寺岡 駿		

編集後記

「外来診療担当表」詳しくはこちらから⇒



昨年末には、コロナが一時的に落ち着くものかと思いましたが、今年になり、第6波が到来し感染拡大傾向になりましたね。コロナとの戦いが続くであろうと思う不安が大きいなか、今年には60年に一回と言われている壬寅(みずのえとら)年になります。この壬寅は、丑寅は陰から陽への変わり目と言われています。これまでの暗いニュースから打開され、明るい兆しが期待できることを願っております。今年もどうぞよろしくお願いたします。

堀池

